

手足口病

1 手足口病はどんな病気？

- ① 口の中や手足などに水疱を伴う複数の発しんがあらわれる、ウイルス性の感染症です。
- ② 子どもを中心に、主に夏季に流行します。
- ③ 病気の原因となるウイルスは、主にコクサッキーウイルス A6、A16 エンテロウイルス 71 (EV71)のほか、コクサッキーウイルス A10 などによってもおこることが知られています。
- ④ 感染症法では定点把握対象の五類感染症に分類され、指定された小児科医療機関が届出基準に基づいて診断した場合、毎週保健所に届出がされることになっています。

2 どんな症状があるの？

- ① 感染してから3～5日後に、口の中、手のひら、足底や足の甲などに2～3mm の水疱を伴う複数の発しんが出ます。発熱がみられることがありますが、38℃以下のことがほとんどです。通常は3日から1週間ほどで治る病気です。
- ② まれに髄膜炎や脳炎などの合併症をおこし重症になることもあります。2 日以上続く発熱や嘔吐、頭痛 などがなければ経過観察を行い、注意をする必要があります。

3 どうやって感染するの？

感染経路は、飛沫感染（患者の唾液や鼻汁がくしゃみやせきで飛び散ることや、吸い込むことで感染）、接触感染（患者の手やさわったものを介して、口に入れたり鼻をさわったりすることで感染）、糞口感染（便の中に排泄されたウイルスが口に入ることで感染）があります。

4 治療方法と予防策は？

- ① 手足口病に特別な治療方法はないため症状に応じた治療となります。まれに合併症などが起こることから、経過観察をしっかりと行うことが必要です。
- ② 手足口病に対する予防接種はありません。
- ③ 快復した後でも、比較的長くウイルスが便の中に排出されることがあるので、排泄物を適切に処理し、感染を予防するために石けん・流水で手洗いをしっかりとしましょう。また、タオルの共用はしないようにしましょう。
- ④ 特に乳幼児の集団生活施設では、感染を拡げないために職員と子どもたちがしっかりと手洗いすることが大切です。
- ⑤ 口腔内の症状により飲食に支障があることがあるため、脱水等に注意が必要です。やわらかく刺激の少ない食べものや水分を少量ずつこまめに摂取するよう努めましょう。